

八幡川改修計画について

中国地建

藤吉三郎 ○坂本治夫
平繁正 松永安生
高見昌信

（概要）

八幡川は広島市の西方にある茶臼山、鬼ヶ城山の中間高須の山中に源を発し、広島市已斐町を流れて山手川に流入していた河川であるが、太田川改修計画により新しく開削され太田川放水路右岸0軒900米に流入することとなった。放水路には計画高水流量4000 m^3 /Sを流下させる計画であり、従って従来より流入地点での外水位は上昇することとなるので、八幡川に対する改修計画を再検討する必要性を生じた。なお、已斐地区の内水排除問題とも関連があるので、八幡川と並行して考慮し検討することとなった。

本報告では八幡川流域についてその特性を述べ、流出の解析結果を示し、計画に用いる水文諸量を明らかにして、それにもとづく改修案を立て説明を加えたものである。
(別に発表資料は印刷の予定)

吉野川における最近の堤防調査について

四国地方建設局 徳島工事々務所

渡辺典雄
水沼善裕

吉野川の第2期改修工事は昭和22年度から漏水防止を主目的として開始された。当初は裏小段増巾及び裏法空石張の施行により堤体の安定を計ることとした。昭和26年頃より積極的漏水防止工法の研究が進められ各種の現地調査、試験工事、模型実験等が行われた結果、表法に練石張護岸及びコンクリート遮水壁工法が採用された。

以上の調査結果については、すでに発表されている通りである。

その後、昭和34年度になつて上記工法をすべての漏水地区で実施するのは画一的であり、地形条件、土質組成からみても必ず妥当とは言えないので各漏水地区の特性に適合した工法を再検討することになった。

このため2つの未着工漏水地区を選び、地形条件、土質組成、漏水機構を詳しく調査し、建設省土木研究所に依頼してこれら資料を用いて電気相似法による模型実験を行なつた。この実験は先に当所で実施した実験に較べて、透水係数分布をより原位置に相似させるような導電体を使って実施した。

亦、現地において従来よりの各種現地調査を続行すると共に、上記2地区の代表断面において間隙水圧測定装置し、漏水機構の解明に努めたい。

別紙パンフレットは新らしい方針に沿つた調査、実験結果について述べたものであり、これにより御説明したい。

吉野川那賀川河口堤防高の決定について

四国地方建設局 徳島工事々務所

渡辺典雄
宮崎義正

河口部における計画高水位を決める場合、既往洪水時の最高水位を基準として、上流側に洪水流過能力を検討

しつつ、決めていくが、河口部堤防高を決めるには、異状高潮波浪等を考慮し、準海岸堤防方式を採用すべきである。

しかしながら従来はそこまで考慮されてない場合が多いようである。近年河口部、背後地域の土地利用が進み、異状高潮による被害が顕出する傾向がみられ、河口部堤防計画にも異状高潮等を考慮して再検討する必要に迫られている。

吉野川、那賀川においても気象、潮位資料をはじめ、関連海岸堤防計画等について調査し、両川河口部堤防高について検討中、去る9月16日第2室戸台風が来襲し、既往最高を上廻る異状高潮が記録された。

別紙パンフレットは、従来より検討中のものに、今回の第2室戸台風時の資料を加えて再検討したものであるが、河口部の水理は、未知の問題も多く、非常に複雑であるので、なお不備な点が多くこれをもつて河口堤防高が決定づけられたわけでは決してなく、今後の検討にまたねばならないと思っている。

大森川発電所水圧鋼管ポンプトリップに就いて

四国電力株式会社 建設部

浮 田 和 明

1. 概 説

大森川発電所は昭和34年10月完成した新鋭発電所で、四国を略々東流する吉野川の最上流部に設けられている。

此の発電所の特徴はダムが中空重力式であることと本邦最初の試みである可逆ポンプ水車を設置して豊水期又は深夜の余剰電力を利用して既設長沢貯水池より此の新貯水池に揚水し尖頭負荷時火力代替の水力として既設長沢他6PSの有効落差約705mを利用して年間凡そ8,000万KWHの増加電力量を得る点である。

発電所上流に設けられた水圧鋼管は発電及び揚水用の両者に併用されるため此れが設計に当つては特に検討を要する箇所も多い。

此の点に就き若干説明したい。

Fig. 1. 大森川発電所計画一般平面図

